

Ebata T, Nagino M, Kamiya J, et al.	Hepatectomy with portal vein resection for hilar cholangiocarcinoma	Ann Surg	238	720-727	2003
Kitagawa Y, Nimura Y, Hayakawa N, et al.	Intrahepatic segmental bile duct patterns in hepatolithiasis: a comparative cholangiographic study between Taiwan and Japan	J Hepatobiliary Pancreat Surg	10	377-381	2003
Sano T, Kamiya J, Nagino M, et al.	Bile duct carcinoma arising in metaplastic biliary epithelium of the intestinal type: A case report	Hepatogastroenterology	50	1883-1885	2003
Ohkubo M, Nagino M, Kamiya J, et al.	Surgical anatomy of the bile ducts at the hepatic hilum as applied to living donor liver transplantation	Ann Surg	239	82-86	2004
Kimura T, Kimura K, Suzuki K, Sakai S, Ohtomo Y, Sakuramachi S, Yamashita Y, Ido K, Kitano S, Yazaki Y.	Laparoscopic cholecystectomy : the japanese experience	Surgical Laparoscopy & Endoscopy	3(3)	194-198	1993
Yamashita Y, Kurohiji T, Hayashi J, Kimitsuki H, Hiraki M, Kakegawa T.	Intraoperative ultrasonography during laparoscopic cholecystectomy	Surgical Laparoscopy & Endoscopy	3(3)	167-171	1993
Yamashita Y, Kurohiji T, Kakegawa T	Two laparoscopic techniques for resection of leiomyoma in the stomach	Surgical Laparoscopy & Endoscopy	5(1)	38-42	
Koichi Suto, Akira Fuse, Yukio Igarashi, Wataru Kimura	Significance of Altered Bilirubin Subfractions in Bile Following Hepatectomy	Journal of Surgical Research	106	62-69	2002
Sugiyama M, Izumisato Y, Abe N	Predictive factors for acute pancreatitis and hyperamylasemia after endoscopic papillary dilation.	Gastrointestinal Endosc	57	531-535	2003
Ando T, Tsuyuguchi T, Okugawa T, Saito T, Ishihara T, Yamaguchi T, Saisho H	Risk factors for recurrent bile duct stones after endoscopic papillotomy	Gut	52	116-121	2003

Nakagohri T, Asano T, Kinoshita H, Kenmochi T, Urashima T, <u>Miura F</u> , Ochiai T	Aggressive Surgical Resection for Hilar-invasive and Peripheral Intrahepatic Cholangiocarcinoma	World J Surg	27	289-293	2003
Cho A, Okazumi S, Makino H, <u>Miura F</u> , Ohira G, Yoshinaga Y, Toma T, Kudo H, Matsubara K, Ryu M, Ochiai T	Relation between hepatic and portal veins in the right paramedian sector: proposal for anatomical reclassification of the liver	World J Surg	28	8-12	2003
Shimada H, Endo I, et al.	Hepatic resection combined with portal vein or hepatic artery reconstruction for advanced carcinoma of hilar bile duct and gallbladder.	World J Surg	27	1137-1142	2003
Shimada H, Endo I, et al.	Is parenchymal-preserving hepatectomy a noble option in the surgical treatment for high-risk patients with hilar bile duct cancer ?	Langenbecks Arch Surg.	388	33-41	2003
Nagano Y, Endo I, Shimada H, et al	Risk factors and management of bile leakage after hepatic resection	World J Surg	27	695-698	2003
Suzuki C, Sano N, <u>Takikawa H</u>	Effect of dexamethasone on biliary excretion of bile acid and organic anions in rats	Hepatol Res	25	48-54	2003
Takeuchi A, Sano N, <u>Takikawa H</u>	Inhibition of ileal bile acid absorption by colestimide	J Gastroenterol Hepatol	18	548-553	2003
Hojo M, Sano N, <u>Takikawa H</u>	Effects of lipopolysaccharide on the biliary excretion of bile acids and organic anions in rats	J Gastroenterol Hepatol	18	815-821	2003
Mori M, Ishii T, Iida T, Tanaka F, <u>Takikawa H</u> , Okinaga K	Giant epithelial cyst of the accessory spleen	J Hep-Bil-Pancreatol Surg	10	118-120	2003
Takada Y, Sano N, <u>Takikawa H</u>	Urinary excretion of bile acid in bile duct-ligated rats	J Gastroenterol Hepatol	38	561-566	2003

Tanaka H, Sano N Takikawa H	Biliary excretion of phenolphthalein sulfate in rats	Pharmacology	68	177-82	2003
Takikawa H, Takamori Y, Kumagi T, Onji M, Watanabe M, Shibuya A, Hisamochi A, Kumashiro R, Ito T, Mitsumoto Y, Nakamura A, Sakaguchi T	Assessment of 287 Japanese cases of drug induced liver injury by the diagnostic scale of the International Consensus Meeting	Hepatology Res	27	192-195	2003
Takayanagi M, Nagayama R, Komaba S, Kurihara H, Kuyama Y, Takikawa H, Miyake K, Kohtake K	Hepato-splenic abscess due to candida infection effectively treated by the intraarterial injection of an antimycotic agent using an implanted reservoir	J Gastroenterol	38	1197-1198	2003
高田忠敬、吉田雅博	肝胆膵の救急疾患—救急のガイド ラインを踏まえて	消化器画像	6	163-165	2004
豊田真之、高田忠敬	腹腔鏡下堪能摘出術—クリニカル パスを用いて—	胆と膵	24	193-198	2003
長島郁雄、安田秀喜、 天野穂高、吉田雅博、 高田忠敬、冲永功太	急性胆道疾患	消化器外科	27	113-118	2004
名郷直樹	EBMの実践：高コレステロール血症 の患者の診断を例に	臨床病理	51	673-677	2003
名郷直樹	EBMの実践の考え方とガイドライン	日本外科学 会雑誌	104	482-485	2003
信岡隆幸、木村康利、 平田公一、他	疾患別に見た手術適応とタイミン グの判断	救急医学	28	111-118	2004
平田公一、浦英樹、木 村康利	肝、胆、膵の救急疾患の診療と研 究;EBMから分子生物学まで	日本腹部救 急医学会雜 誌	23	13-26	2003
西尾秀樹、柳野正人、 神谷順一、他	安全・確実に行うための縫合・吻合 法のすべて 縫合・吻合法の実際—胆管吻合法— 胆管空腸吻合	外科治療	88	642-649	2003
西尾秀樹、神谷順一、 柳野正人、他	胆道手術に必要な局所解剖	外科治療	88	979-984	2003
西尾秀樹、柳野正人、 神谷順一、他	術前ドレナージとしての胆管 stentingのルート選択とその根拠	消化器内視 鏡	15	1179-1186	2003

西尾秀樹、 <u>榑野正人</u> 、 湯浅典博、他	上部良性胆道狭窄の外科的治療の 長期予後	胆と膵	24	529-534	2003
松永和哉、神谷順一、 <u>榑野正人</u> 、他	経皮経肝胆道鏡(PTCS)に伴う偶発 症	消化器内視 鏡	15	1509-1511	2003
広松 孝、 <u>榑野正人</u> 、 西尾秀樹、他	肝門部胆管狭窄	胆と膵	24	589-595	2203
<u>山下裕一</u> 、渡邊建詞、 酒井憲見、前川隆文、 白日高歩	腹腔鏡下総胆管結石症の手術 - 経胆嚢管的切石術	消化器外科	22(5)	772-778	1999
<u>山下裕一</u> 、星野誠一 郎、白日高歩	腹腔鏡下胆嚢摘出術の術者教育；知 っておくべき知識と教育方法	消化器外科	24(7)	1063-1070	2001
星野誠一郎、 <u>山下裕一</u> 、 山内 靖、 白日高歩	胆嚢摘出術 -胆嚢管・総胆管・血 管の走行異常、既往手術による癒着 剥離(腹壁、腸管、大網)、胆嚢炎 の癒着剥離-	消化器外科	25	681-689	2002
<u>山下裕一</u> 、星野誠一 郎、白日高歩	急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢 摘出術	外科治療	86	834-840	2002
須藤幸一、 <u>木村 理</u>	胆道感染症	日本臨牀	60巻 増刊号1	284-288	2002
須藤幸一、布施 明、 平井一郎、浦山雅弘、 <u>木村 理</u>	腫瘍形成型胆管細胞癌の非切除例 における放射線化学療法の効果	胆道	16巻5号	381-386	2002
露口利夫、 <u>税所宏光</u>	胆石、胆道炎。(特集：高齢者の肝胆 膵疾患診療の進歩)	老年消化器 病	15(1)	21-24	2003
露口利夫、 <u>税所宏光</u>	総胆管胆石症に対する内視鏡治療 -外来診療は可能か？-	成人病と生 活習慣病	33(2)	187-191	2003
露口利夫、奥川忠博、 石原武、山口武人、 <u>税 所宏光</u>	胆管胆石症に対する内視鏡的乳頭 切開術の長期予後-術後再発例の 検討-	胆膵の生理 機能	19(1)	39-41	2003
露口利夫、黒田泰久、 福田吉宏、 <u>税所宏光</u>	術後良性胆道狭窄に対する内視鏡 的胆道拡張術の長期予後	胆と膵	24(7)	513-516	2003
<u>遠藤 格</u>	胆嚢癌のリンパ節転移様式	外科	第65巻 第4号	415-421	2003
遠藤 格 <u>嶋田 紘</u>	癌外科治療の標準化に向けての展 望 胆道癌	日外会誌	第104巻 第5号	404-411	2003
海野倫明、 <u>松野正紀</u>	胆嚢癌の深達度診断と手術方針	外科	65(4)	377-380	2003

柿田徹也, 海野倫明, 片寄友, 力山敏樹, 松 野正紀	切除不能肝門部胆管癌に対する expandable metallic biliary stenting(EMBS)治療の工夫	外科	65(10)	1177-1182	2003
大塩博, 鈴木正徳, 海 野倫明, 片寄友, 力山 敏樹, 竹内丙午, 柿田 徹也, 小野川徹, 水間 正道, 白相悟, 松野正 紀	術前MDCTのMPR画像で直接膵浸潤 が確認された中・下部胆管癌の1切 除例	胆と膵	24(6)	465-469	2003
広田昌彦, 井崎敏也, 岡島英明, 小川道雄.	経皮経肝胆道ドレナージ	消化器外科	26	881-885	2003
大槻 眞, 林 櫻松, 渡邊明治, 荒川泰行, 広田昌彦	生活習慣と肝胆膵疾患	肝胆膵	46	229-47	2003
広田昌彦, 木村 有, 大嶋寿海, 小川道雄	外科病態とDIC	総合臨床	52	1728-1734	2003
広田昌彦, 小川道雄	生体反応の制御とその功罪	日外会誌	104	847-851	2003
広田昌彦, 木村 有 井上耕太郎, 大村谷昌 樹, 前田圭介, 小川道 雄	ショックにおけるメディエータ対 策	侵襲と免疫	12	23-28	2003
塙 直子, 永山亮造, 高森頼雪, 栗原裕子, 高柳もとえ, 立澤英貴, 滝川 一, 福島純一, 福里利夫, 志賀淳治	中国産ダイエット用健康食品「茶素 減肥」による急性肝障害の1例	肝臓	44	109-112	2003
滝川 一, 高森頼雪, 久持顕子, 伊藤 正, 熊木天児, 渡辺真彰, 中村篤志	新しい薬物性肝障害診断基準の提 案- 国際コンセンサス会議による 診断基準の改定をもとに-	肝臓	44	176-179	・2003
塙 直子, 丸茂達之, 立澤英貴, 高柳もとえ, 栗原裕子, 笹本貴広, 明石雅博, 相磯光彦, 高森頼雪, 佐野直代, 滝川 一	アゼルニジピンの胆汁中排泄機構 の検討	薬理と治療	31	S-123-S12 4	2003
滝川 一	胆汁酸の腸管吸収と肝取り込み 特集:胆汁酸の腸肝循環の機構と機 能	消化器科	36	57-62	2003

永山亮造、滝川 一	特集どう読むか肝機能障害。胆道系酵素、総胆汁酸	臨床と研究	80	223-225	2003
滝川 一、高森頼雪	薬物性肝障害の診断	日本消化器病学会雑誌	100	653-658	2003
滝川 一	特集「胆汁酸トランスポーターの最新情報」、総論	胆汁酸	2	9	2003
相磯光彦、滝川 一	特集：慢性肝炎—治療法の新たな展開。薬物性肝障害、アルコール性肝障害、代謝性肝障害	今日の治療	11	1141-1148	2003
滝川 一	遺伝性肝疾患—肝トランスポーター異常を中心に。緒言	肝臓	44	481-482	2003
松田兼一、平澤博之、 織田成人	Hypercytokinemia および cytokine factoryの診断とその対策	ICUとCCU	27	37-48	2003
松田兼一、平澤博之、 織田成人	当科における敗血症性ショック死亡例の検討	ICUとCCU	27	S21-S24	2003
織田成人、平澤博之、 志賀英敏	MOF における bacterial translocationの実態とその対策	日腹部救急医学会誌	23	491-497	2003
織田成人、平澤博之、 新田正和	重症感染症集学的治療	消化器外科	26	1231-1239	2003
織田成人、平澤博之、 志賀英敏	重症感染症の病態とメディエーター	日本外科学会雑誌	104	511-517	2003
織田成人、平澤博之、 志賀英敏	敗血症性多臓器不全治療の最近の進歩	本外科感染症研究	5	23-28	2003

仲村将高、 <u>平澤博之</u> 、 織田成人	多臓器不全	ICUとCCU	27	923-930	2003
-----------------------------	-------	---------	----	---------	------

## 参考

- 第1回班会議総会プログラム、議事録
- 第2回班会議総会プログラム、議事録
- 第1回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
- 第2回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
- 主任者班会議プログラム、議事録
- 第1回ワーキンググループスタッフ会議プログラム、議事録
- 第2回ワーキンググループスタッフ会議プログラム



厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班  
(主任研究者 高田 忠敬)

平成 15 年度第 1 回総会プログラム

総会予定：

- |                                     |            |
|-------------------------------------|------------|
| (1) 主任研究者挨拶                         | 高田忠敬       |
| (2) 厚生労働省医政局研究開発振興課<br>医療技術情報推進室 挨拶 | 武末文男、嶺 和利  |
| (3) EBMとガイドライン                      | 福井次矢       |
| (4) (財) 日本医療機能評価機構                  | 佐藤敏彦       |
| (5) 今年度の研究計画について                    | 高田忠敬       |
| (6) 分担金について                         | 高田忠敬(吉田雅博) |
| (7) ガイドライン作成の手順と<br>ワーキンググループ結成活動   | 高田忠敬(真弓俊彦) |
| (8) 次回総会の予定について                     | 高田忠敬       |

日時：平成 15 年 7 月 15 日 (火) 12:00～15:00 (昼食付き)

場所：ホテルニューオータニ 本館 1 階 「楓 (かえで) の間」  
東京都千代田区紀尾井町 4-1  
Tel: 03-3265-1111

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班  
(主任研究者 高田忠敬)

第1回議事録

日時：平成15年7月15日 12:00-14:45

場所：ホテル ニューオータニ 本館1階 「楓（かえで）の間」

出席者：

- ・主任研究者（班長）： 高田忠敬
- ・厚生労働省： 武末文男、嶺 和利
- ・医療評価機構： 佐藤敏彦
- ・分担研究者：二村雄次、平田公一、福井次矢、真弓俊彦
- ・研究協力者：名郷直樹、滝川 一、税所宏光、桐山勢生、平澤博之、安藤久實、木村 理、松野正紀、広田昌彦、嶋田 紘、高崎 健、跡見 裕、山下裕一、田尻 孝
- ☞ ワーキンググループ： 榑野正人、木村康利、関本美穂、露口利夫、三浦文彦、上野博一、海野倫明、太田岳洋、阿部展次、横室茂樹
- ・事務局： 安田秀喜、吉田雅博
- ・欠席者： 酒井達也、田中 篤、小倉行夫、遠藤 格

総会

1. 高田班長によって開会が宣せられた。

2. 高田班長の挨拶

引き続き、高田班長から今回の研究班の結成の経緯、目的の紹介があった。今回の研究班でのガイドライン作成に当たって日本腹部救急医学会、日本胆道学会、日本肝胆膵外科学会からも協力が得られることが承認されていることが伝えられた。

「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」が、全員に配布され、作成の目的や経緯、社会的な意義について説明が行われた。

3. 福井分担研究者によるガイドラインの概説、講演

福井教授からガイドラインの概説、厚生労働省でのガイドライン作成作業の経緯、作成上の注意点等につき解説が行われた。

4. 医療評価機構担当者からの解説

医療評価機構 佐藤敏彦先生（北里大学）から医療評価機構でのガイドラインに関する取り組みについての解説が行われた。ガイドラインやガイドラインに引用される文献のアブストラクトフォームをホームページ上で公開する計画の紹介が行われた。

真弓分担研究者より、基本となる data base の枠組みや用いるべき評価表等についての質問と、作成された data base の権利等について質問あり、佐藤先生より、現在のところ進行中のプロジェクトであり、種々の問題点については今後、検討される予定であるとの説明があった。

5. 厚生労働省医政局研究開発振興課 医療技術情報推進室 室長補佐、武末文男先生、ならびに係長、嶺 和利先生の挨拶

厚生労働省医療政策局で行ってきたガイドライン作成作業や、今後の方針についての紹介が行われた。また、急性胆道炎のガイドラインは今後2年間での完成が要望された。

仁村分担研究者より、ガイドライン作成後の保険診療に対する影響について質問あり、嶺先生より前向きに検討される予定であるとの説明があった。

6. 事務局（吉田）から研究班の説明

吉田講師から、今回の研究班はガイドライン作成を目的としているので、各個研究は必要ないことが伝えられた。また、文献検討やガイドライン作成の実務に関わる先生方になるべく報えるような研究費の配分を考えていることが伝えられた。

7. 真弓分担研究者よりガイドライン作成方法についての解説

真弓講師から今回のガイドラインの作成方法について紹介が行われた。作成方法は急性膵炎のガイドラインに準じ、MEDLINE ならびに医中誌の検索によって該当文献が約 15,759 文献あり、これらを二重チェックすることにより、全文を吟味する必要のある文献を選択する。選択されたこれらの文献はレベル表を用いてレベル付けを行い、ガイドラインに使用する文献はアブストラクトフォームを作成し、レベルの高い文献に基づいたガイドライン案を作成する方針が示された。これらの作業は mailing list を用いて検討すること、レベルや推奨度の表示などのガイドラインの形態も急性膵炎に準じることが示された。

8. 広田研究協力者、関本ワーキンググループ委員より、急性膵炎ガイドライン作成時の感想（苦労話）が披露された

9. ワーキンググループ（実務）担当者での打ち合わせ

引き続き、実務担当者での打ち合わせが行われた。「EBM の玉手箱」「統計」の 2 冊の書籍と、担当する範囲の文献が入った CD が担当者全員に配布された。（各担当者 1,600 文献）また、文献の検討作業では、文献の全文を吟味する必要があるか、ガイドライン作成に必要なものであるかの「要、不要」の検討、「要」とされた文献では、治療や診断のレベル、大項目、文献の内容等の項目をチェックすること、この作業は 8 月 15 日までに終了し、e-mail の添付文書にて真弓まで送ることが確認された。

また、8 月末または 9 月の胆道学会時にワーキンググループ（実務）担当者が集まることが提案されたが、時期については今後調整することとなった。

以上

厚生労働省科学研究（医療技術評価総合研究事業）  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班  
（主任研究者 高田忠敬）

平成 15 年度第 2 回総会 プログラム

会議予定

- (1) 主任研究者挨拶
- (2) 研究結果発表：（ガイドライン第一案の報告）
- (3) 今後の研究計画について
- (4) 今年度予算について
- (5) その他

日 時：平成 15 年 11 月 13 日（木） 11：00～ 13：30

場 所：福岡国際会議場（福岡市）、  
第 65 回日本臨床外科学会総会会場 第 10 会場 406 号室

## 研究結果発表：(ガイドライン第一案の報告)

1. 用語の定義、既出ガイドラインの検討  
横須賀市立うわまち病院 名郷直樹
2. 急性胆道炎の疫学
  - 2-1. 疫学—発生頻度、成因、地域性 (含 Oriental cholangitis)  
京都大学 関本美穂、名古屋大学 真弓俊彦
  - 2-2. 疫学—再発、死亡、死因、長期予後  
京都大学 福井次矢、酒井達也
3. 急性胆道炎の臨床徴候と診断
  - 3-1. 臨床徴候—AOSC, Charcot, Reynolds, Murphy Sign—  
大垣市民病院 桐山勢生
  - 3-2. 診断—血液、尿、特殊検査 (含エンドトキシン、サイトカイン)  
熊本大学 広田昌彦
  - 3-3. 診断—細菌検査  
札幌医科大学 平田公一、木村康利
4. 急性胆道炎の画像診断
  - 4-1. 画像診断—CT, US, X-p  
川崎医科大学 畠 二郎
  - 4-2. 画像診断—MRI, ERCP, EUS, MRCP, シンチ  
帝京大学 高田忠敬、安田秀喜、吉田雅博、三浦文彦
5. 重症胆道炎と胆道の微細構造 (臨床、病理学的変化)  
日本医科大学 田尻 孝、横室茂樹
6. 重症度評価と多臓器不全、集中治療  
千葉大学 平沢博之、上野博一
7. 悪性疾患と急性胆道炎、鑑別疾患  
山形大学 木村 理、須藤幸一
8. 急性胆道炎に対する内科的治療とその限界
  - 8-1. 基本的治療方針と初期治療  
千葉大学 税所宏光、露口利夫
  - 8-2. 抗菌薬の胆道内移送と薬物療法  
帝京大学 滝川 一、田中 篤
9. 胆道ドレナージ
  - 9-1. 内視鏡的胆道ドレナージ—ENBD, EST, EPBD ほか  
杏林大学 跡見 裕、阿部展次
  - 9-2. 経皮的胆道ドレナージ—PTCD, PTGBD  
名古屋大学 二村雄次、柳野正人
  - 9-3. 外科的胆道ドレナージ  
藤田保健衛生大学 宮川秀一、伊東昌弘
10. 急性胆道炎に対する外科手術
  - 10-1. 開腹手術  
東京女子医科大学 高崎 健、太田岳洋
  - 10-2. 腹腔鏡下手術  
福岡大学 山下裕一
11. 小児の急性胆道炎の病態、診断、治療  
名古屋大学 安藤久實、小倉行雄
12. 高齢者の急性胆道炎の病態、診断、治療  
東北大学 松野正紀、海野倫明
13. 特殊な胆管炎
  - 13-1. 肝内胆管炎 (含 segmental cholangitis), Oriental cholangitis, PBC, PSC  
横浜市立大学 嶋田 紘、遠藤 格
  - 13-2. 術後胆道感染 (含む特殊治療後)  
東海大学 今泉俊秀、堂脇昌一

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班  
(主任研究者 高田忠敬)  
第2回総会議事録

日時：平成15年11月13日 11:00-15:00  
場所：福岡国際会議場 第10会場 406号室  
配布資料：急性胆道炎の診療ガイドライン(案) ver.1

出席者：

- ・主任研究者(班長)：高田忠敬
- ・分担研究者：二村雄次、平田公一、真弓俊彦
- ・研究協力者：跡見 裕、今泉俊秀、木村 理、桐山勢生、嶋田 紘、田尻 孝、名郷直樹、畠 二郎、平澤博之、広田昌彦、松野正紀、宮川秀一、山下裕一、安田秀喜
- ワーキンググループ：阿部展次、伊東昌広、上野博一、海野倫明、遠藤 格、太田岳洋、小倉行夫、木村康利、酒井達也、須藤幸一、田中 篤、露口利夫、堂脇昌一、柳野正人、三浦文彦、横室茂樹
- ・事務局：吉田雅博
- 欠席者：福井次矢、安藤久實、滝川 一、税所宏光、高崎 健、関本美穂、

総会

8. 高田班長によって開会が宣せられた。

9. 高田班長の挨拶

引き続き、高田教授から今回の研究班でのガイドライン作成に当たって日本腹部救急医学会、日本胆道学会、日本肝胆膵外科学会からも資金協力が得られたことが伝えられた。また、今後の予定について紹介があり、5月の日本肝胆膵外科学会でのシンポジウム、9月の胆道学会でのガイドライン案の公表、2005年3月の日本腹部救急医学会での公開討論会の予定が伝えられた。

10. ガイドライン案の発表および検討

続いて、各担当者が作成したガイドライン案について配布資料またはコンピュータプレゼンテーションにて順次、解説を行なった。研究発表内容に対して、主任研究者、分担研究者、研究協力者より再検討・再調査項目、追記事項など意見が出された。指導内容はおおよ以下の通り

- (1) 本ガイドラインの作成目的は、特殊な内容の特別な報告ではなく、現在の日本における標準的な治療指針を示すことである。いわゆる医学論文とは違う。
- (2) エビデンス抽出は重要であり、今回の発表会ではそれが主たる目的であった。今後は、それのみにこだわらず、日本における医療の現況を十分に踏まえ、またエビデンスの少ない診療領域については、専門家の意見を十分に取り入れ、コンセンサスを得て可能な限り使いやすいガイドラインの完成に努力する。
- (3) エビデンスの多い分野のみが強調される傾向があるが、エビデンスの乏しい分野(特に治療)をコンセンサスで埋めることが重要。このために、フローチャートを作成し、スムーズな連続した診療のために何が抜けているかを検討して行くことが今後の課題。

11. 事務局(吉田)から事務事項の説明

吉田講師から、今回の研究班における経費の申請等の事務事項が伝えられた。

以上

## 参考：班会議総会（11/15）の評価

1. 用語の定義、既出ガイドラインの検討 横須賀市立うわまち病院 名郷直樹
2. 急性胆道炎の疫学
  - 2-1. 疫学—発生頻度、成因、地域性（含 Oriental cholangitis）  
京都大学 今中雄一、関本美穂
  - 2-2. 疫学—再発、死亡、死因、長期予後  
京都大学 福井次矢、酒井達也
3. 急性胆道炎の臨床徴候と診断
  - 3-1. 臨床徴候—AOSC, Charcot, Reynolds, Murphy Sign— 大垣市民病院 桐山勢生
  - 3-2. 診断—血液、尿、特殊検査（含エンドトキシン、サイトカイン） 熊本大学 広田昌彦
  - 3-3. 診断—細菌検査 札幌医科大学 平田公一、木村康利
4. 急性胆道炎の画像診断
  - 4-1. 画像診断—CT, US, X-p 川崎医科大学 畠 二郎  
炎症の広がり（波及）範囲診断について検討する  
DIC-CT についても検討する
  - 4-2. 画像診断—MRI, ERCP, EUS, MRCP, シンチ 帝京大学 高田忠敬、安田秀喜、吉田雅博、三浦文彦  
胆道シンチはエビデンスとして記載しても、推奨はしない：日本の実情
5. 重症胆道炎と胆道の微細構造（臨床、病理学的変化） 日本医科大学 田尻 孝、横室茂樹
  - 動物実験の結果の取り扱いについて
    - (ア) 動物実験であるという記載をする
    - (イ) evidence としては、人での確認が可能（必要）かどうか？引用可能かどうか？ について、それぞれの事項について、検討する
  - 感染の波及については、
    - ① 胆汁内→胆管壁→血液
    - ② 血液→胆管→胆汁 の2経路について検討する
6. 重症度評価と多臓器不全 千葉大学 平沢博之、上野博一
  - 判定基準を作成できるか？→ さらに → 搬送基準 を作れるか
    - 1) 判定基準作業の手順：
      - ① 重症判定法の中で感度 100%あるいは特異度 100%を集めて、表を作る
      - ② コンセンサスでまとめあげる
    - 2) 搬送基準について：
      - これまでの判定基準、あるいは上記の判定基準による死亡率表を用い
      - 死亡率の高い状態（病態）を cut-off 値を決定し、搬送基準とする
7. 悪性疾患と急性胆道炎、鑑別疾患 山形大学 木村 理、須藤幸一
  - ① 鑑別：黄色に肉芽腫性胆嚢炎と胆嚢癌
  - ② 胆道癌の合併を念頭に置くべき急性胆道炎の病態は何か？
8. 急性胆道炎に対する内科的治療とその限界 千葉大学 税所宏光、露口利夫
  - 8-1. 基本的治療方針と初期治療
    - ① 無石胆嚢炎の対処法について検討
    - ② PTGBA をどう取り扱うか？
    - ③ 輸液
    - ④ 食事
  - 8-2. 抗菌薬の胆道内移送と薬物療法 帝京大学 滝川 一、田中 篤
    - ① 抗菌薬を推奨する場合、RCT のある古い（現在使われていない）抗菌薬と、RCT のない最新の広域抗菌薬をどう取り扱うか？

## ②鎮痛剤をどう取り扱うか？

### 9. 胆道ドレナージ

#### ①ドレナージ全体としての統一を図ること

内視鏡的 (ENBD, EST, EPBD) :

経皮的 (PTCD, PTGBD, PTGBA) :

手術的ドレナージ

#### ②PTGBA は、臨床的には内科的初期治療に入れるべきか？

#### ③ドレナージを論ずる場合に、原因疾患ごとに分けて考えるべき

胆石性、悪性腫瘍、閉塞部位によって方針は変わるか？

9-1. 内視鏡的胆道ドレナージ-ENBD, EST, EPBD ほか 杏林大学 跡見 裕、阿部展次

9-2. 経皮的胆道ドレナージ-PTCD, PTGBD 名古屋大学 二村雄次、柳野正人

#### ①PTCD を推奨する場合、「手技の熟練した施設で」を付け加える。

#### ②ハイリスク症例、高齢者に適応とする場合、「高齢者」項目との整合性をつける

「ハイリスク」の正確な定義はできるのか

#### ③PTGBD = PTGBD とは言えないか

#### ④胆管炎に対する有用性検討で、PTCD vs 抗菌薬の RCT は臨床上不可能：コンセンサスでは？

9-3. 外科的胆道ドレナージ

藤田保健衛生大学 宮川秀一、伊東昌弘

検討項目：

#### ① 現在どんな手術ドレナージ治療がなされているか

#### ② 手術的ドレナージの indication は何か？

根治手術不能例、内視鏡的ドレナージ不能例、ショック状態？

### 10. 急性胆道炎に対する外科手術

エビデンスは記載するが、推奨については、日本での実情を考慮する。

Evidence の多い緊急 Lap-C に固執しないようにする

10-1. 開腹手術

東京女子医科大学 高崎 健、太田岳洋

10-2. 腹腔鏡下手術

福岡大学 山下裕一

11. 小児の急性胆道炎の病態、診断、治療

名古屋大学 安藤久實、小倉行雄

疫学；頻度、原因、専門医への搬送基準について一般的に記載

12. 高齢者の急性胆道炎の病態、診断、治療

東北大学 松野正紀、海野倫明

胆道ドレナージとの整合性をつける。

ASA score との関連

気腹法と wall lift 法の検討はあるか？

### 13. 特殊な胆管炎

何を「特殊とするか」

13-1. 肝内胆管炎 (含 segmental cholangitis), Oriental cholangitis, PBC, PSC

横浜市立大学 嶋田 紘、遠藤 格

#### ① segmental cholangitis について詳記する (定義とか)

#### ② 日本の胆管炎 = or ≠ Oriental cholangitis

肝内結石症の原因として総胆管結石、感染、寄生虫 (肝内結石症の班会議の資料、意見参照)

13-2. 術後胆道感染 (含む特殊治療後)

東海大学 今泉俊秀、堂脇昌一

#### ① 術後の吻合部狭窄による胆管炎

#### ② 術式別の術後胆道炎の頻度はどうか？

#### ③ Lap-C 後の胆道炎の頻度 (胆管損傷に起因するものはどうか？)



平成 15 年 8 月 5 日

厚生労働省急性胆道炎ガイドライン  
ワーキンググループ委員各位

### 第一回ワーキンググループ開催

謹啓、時下益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

胆道炎ガイドラインワーキンググループ委員の諸先生方におかれましては、暑さ厳しい中、論文評価ありがとうございます。第一回のワーキンググループを 8 月 22 日に開催いたします。ご多忙中のこととは存じますが、ご出席賜りますようお願いいたします。

尚、主任研究者高田教授、分担研究者平田教授も出席される予定です。

謹白

### 記

会名：厚生労働省急性胆道炎ガイドラインワーキンググループ会議

日時：平成 15 年 8 月 22 日（金） 13 時～16 時

場所：パレスビル 3 階 「C 会議室」

（パレスホテルに隣接するビルで、パレスホテルから連絡可能）

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-1-1

TEL:(03)3211-5211(パレスホテル代表番号) FAX:(03)3211-6987

<http://www.palacehotel.co.jp/access/access.html>

プログラム：

- 1) 高田主任研究者挨拶
- 2) ワーキンググループ委員紹介
- 3) 今後の予定について：今後の学会における報告（シンポ等）
- 4) 文献評価の進行確認
- 5) 文献評価の問題点、注意点について
- 6) 次回会議予定
- 7) その他

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班（高田班）事務局  
帝京大学 外科 吉田雅博  
e-mail: yoshidam@med.teikyo-u.ac.jp  
TEL:(03)3964-1228 FAX:(03)3962-2128

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班（主任研究者 高田忠敬）  
ワーキンググループ会議  
第1回議事録

日時：平成15年8月22日 13:00-15:15

場所：パレスビル 3階 会議室C

出席者：平田公一、阿部展次、伊東昌広、上野博一、海野倫明、遠藤 格、小倉行雄、木村康利、桐山勢生、  
須藤幸一、関本美穂、田中 篤、露口利夫、名郷直樹、島 二郎、広田昌彦、三浦文彦、横室茂樹、  
吉田雅博、真弓俊彦

欠席者：酒井達也、柳野正人、太田岳洋、山下裕一

議事

1. 真弓分担研究者によって開会が宣せられた。
2. 平田分担研究者の挨拶  
引き続き、平田分担研究者から今回の研究班の結成の経緯、目的の紹介があった。また、ワーキングの委員の先生のガイドラインの作成への協力の要請が伝えられた。
3. ワーキンググループ委員より自己紹介が行われた。
4. 真弓分担研究者より今回のガイドラインの目的、作成方法の概説  
真弓分担研究者から今回のガイドライン作成することになった経緯についての説明が行われた。また、4.の後に、作成方法の概説が行われた。
5. 名郷研究協力者から文献評価の方法についての解説  
名郷研究協力者から実際の文献評価にあたっての解説が行われた。スライドによる講演と文献を用いた評価演習が行われ、さらに、質疑応答が行われた。
6. 今後の予定  
吉田委員から今後の予定について紹介があった。  
文献の1次評価を再度行い、29日までに真弓に送る。  
これを元に文献を収集し、各担当者に郵送する。  
各担当者は文献の2次評価を行い、ガイドラインに使用する文献に関しては、後日送られる評価シートに記入する（11月の総会では必須ではない）。これらの文献を基に素案を作成する。  
11月13日11-13:30 第65回日本臨床外科学会総会（福岡）にて第2回班会議総会開催：この際にガイドラインの素案を提示していただく。  
12月 第2回WG会議（東京：予定）：第1案の内容の討議と第2案の作成  
平成16年1-2月 第3回WG会議（東京：予定）：第2案をまとめ、平成15年度厚生労働省研究報告書作成、提出。  
同年5月12-14日 第1回研究発表会：第16回日本肝胆膵外科学会総会（関連会議）（大阪）にて、シンポジウム、ワークショップ、コンセンサスカンファレンスのいずれかの形式で、公開し、フィードバックを得る。  
同年9月24-25日 第2回研究発表会：第40回日本胆道学会総会（つくば）にて、シンポジウム、ワークショップ、コンセンサスカンファレンスのいずれかの形式で、公開し、フィードバックを得る。
7. Abstract 評価に当たっての問題点について：慢性胆嚢炎、胆道閉鎖症、原発性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆管炎、難治性胆管炎(Caroli 病)、MCLS 胆嚢炎、Lymphoplasmacytic chronic cholecystitis、Xanthogranulomatous Cholecystitis などの文献では、疾患にとらわれず、急性胆道炎に関する研究は取り上げる。
8. 項目、担当者の割り当て  
ガイドラインに使用する項目、ならびに担当者は別紙の如く決定し、各担当者が11月13日の総会時に素案を提示することとなった。
9. 2次評価シートの提示  
今後、文献全文を実際に評価する際に使用する評価シート例が提示された。（厚生労働省の評価シート、胃がんガイドラインの評価シート、乳がんガイドラインの評価シートを提示）。従来のFile Makerの形式に新たなレイアウトとして、診断の論文用と、治療の論文用の評価シートが作成、使用される予定である。  
以上

平成 15 年 12 月 20 日

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班  
ワーキンググループ委員各位

## 第 2 回急性胆道炎ガイドライン作成ワーキンググループ会議について

謹啓、時下益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

先生方におかれましては、寒さ厳しい中、ガイドライン作成評価作業ありがとうございます。第 2 回のワーキンググループ会議を 2004 年 1 月 9 日に開催いたします。ご多忙中のこととは存じますが、ご出席賜りますようお願いいたします。

謹白

### 記

会名：第 2 回急性胆道炎ガイドライン作成ワーキンググループ会議  
日時：平成 16 年 1 月 9 日（金） 13 時～17 時（コーヒー、ケーキ付）  
場所：パレスビル 3 階 「C 会議室」  
（パレスホテルに隣接するビルで、パレスホテルから連絡可能）  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-1-1  
TEL:(03)3211-5211(パレスホテル代表番号) FAX:(03)3211-6987  
<http://www.palacehotel.co.jp/access/access.html>

以上

### 議題:

- 1) 高田主任研究者挨拶、主任会議報告
- 2) 今後の予定について: 今後の学会における報告会(シンポ等)
- 3) ガイドライン案の内容検討
- 4) 文献評価表の進行確認
- 5) その他

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班

主任研究者 高田忠敬

事務局 吉田雅博

e-mail: yoshidam@med.teikyo-u.ac.jp

TEL:(03)3964-1228 FAX:(03)3962-2128

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班  
(主任研究者 高田忠敬)  
第2回ワーキンググループ会議  
議事録

日時:平成 16 年 1 月 9 日 13:00-17:00

場所: パレスビル 3 階 会議室 C

出席者:高田忠敬、平田公一、阿部展次、伊東昌広、上野博一、海野倫明、遠藤 格、太田岳洋、小倉行雄、木村康利、桐山勢生、酒井達也、須藤幸一、関本美穂、田中 篤、露口利夫、柳野正人、名郷直樹、畠二郎、広田昌彦、三浦文彦、山下裕一、横室茂樹、吉田雅博、真弓俊彦

欠席者: 堂脇昌一

### 議事

1. 吉田委員によって開会が宣せられた。
2. 名郷委員の文献評価についての解説(途中3のため中断の後、再開)  
文献を評価法やその際の注意事項について、解説をしていただいた。
3. 高田班長からより今回のガイドラインの目的、作成方法の概説  
12月の主任会議での概要、ならびにガイドライン作成に関する方針についての説明が行われた。
  - ・ エビデンスがないではなく、このようなレベルのエビデンスがあるという表記にするようにとの依頼があった。
  - ・ 重症度判定、搬送基準、診断、小児、などについて。
  - ・ また、今後の関連学会での発表についての打ち合わせが行われた。実際に行われている内容についての発表をして頂くようにとの依頼があった。
  - ・ 酒井委員からの質問:疫学部門の目的:疾患の重要性、介入による差の指標の2つがあるが、いずれを目的とするか?委員から冒頭では疾患の重要性を示す必要があるのではないかと、また、法的根拠となる可能性もあり、十分注意しながら作成する必要あり、との意見があった。
4. 引き続きガイドラインのクリニカル・クエスチョンを中心に検討した。  
用語定義:項目は別紙:病理担当の横室先生と名郷先生で項目を検討して頂くこととなった。定義の本文と、クリニカル・クエスチョンをともに記載する。  
疫学とは別に胆道炎の成因の項を作成する。  
重症度評価、転送基準は既存のもで行うか?あるいは、作るならば、retrospective に症例を集積し、重症度判定を行うか?胆道炎は死亡率が低く、症例が多数必要。重症例だけ集めるか?基礎疾患が重篤な場合もあり、評価が難しいのでは?  
診断基準から必要か?  
胆汁感染を予測できるか?  
何らかな侵襲的手技を行った症例:全部行ってしまう。